

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第1回近江八幡市有機農業産地づくり検討会		
開催日時	令和7年6月24日（火） 14:00～15:30		
開催場所	近江八幡商工会議所 2階 大ホール （住所：近江八幡市桜宮町231番2）		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	※出席委員（敬称略、順不同） 仁連孝昭（◎）、大西實（○）、秋津元輝、尾賀康裕、 小玉恵（山本昌仁委員代理）、秋村田津夫、鬼海航太、山本航平、 中尾星志（オンライン参加） ※欠席委員（敬称略、順不同） 田口真太郎、和田 洋 【事務局】 総合政策部部长 辻公寿 総合政策部企画課 課長 武田善雄、課長補佐 東有希、主査 中川郁 産業経済部部长 大林一裕 産業経済部農業振興課 課長 川村忠基、課長補佐 木村知明、主事 漁野智		
次回開催予定日	令和7年（未定）		
問い合わせ先	所 属 名 : 総合政策部企画課 担当者名 : 中川 郁 電話番号 : 0748-36-5527 メールアドレス : 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	会議が長時間に渡ったため、内容を整理して、分かりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局	開 会 省 略
会 長	挨拶 省 略
事務局	議題 1 検討会の名称について ■ 事務局より、オーガニックビレッジの推進について広く議論をいただくため、検討会の名称を「オーガニックビレッジ推進検討会」に変更する提案を行った。 (意見なし)
会 長	■ 提案どおり近江八幡市オーガニックビレッジ推進検討会という名称で今年度から進めさせていただく。
事務局 委 員	議題 2 令和 7 年度オーガニックビレッジ推進事業について ■ 資料 1 に基づき、事務局より説明。 ■ これまで話し合ってきたところでは、オーガニックビレッジというのはまだまだ浸透していないので、P R やイベントの実施について話が出ていた。 ■ 学校給食への挑戦は大きな P R にもなるし、子どもたちが体験をすることによって大きく広がると思う。 ■ 資料 1 の事業相関図の中では具体的に学校給食というものが出てこないが、また別なのか。また、市民がオーガニックビレッジ宣言とは何かという疑問を持つところから始まると思うので、様々な機会でもオーガニックビレッジ宣言を大々的に P R してほしい。
事務局	■ 1 点目の学校給食について、有機農業を推進するうえで学校給食への有機農産物の供給は非常に重要であると認識し検討しているが、現在の市内における有機農業の取組みは約 3 6 ヘクタールとかなり低い状況。また、販路を持っている方々ばかりが実践されている。 ■ さらに、米価の高騰により環境保全型農業から慣行栽培に戻られる方が多いと感じており、有機農業を推進するには厳しい状況ではある。 ■ しかし、短期的には成果が出にくい、長期的な視点から考えて、生産量を増やしながら、ブランド化を図り、その上で学校給食へ展開していると考えている。農業者に持続的に有機農業に取り組んでもらえるように推進していきたい。
委 員	■ 2 点目について、委員の意見を踏まえ、引き続き P R 活動に積極的に取り組んでいきたい。 ■ 学校給食で有機農産物を提供するには、どうしたら一番早く提供できるかというのを早急に研究してほしい。
委 員	■ まして、来年円山町で 2 名の農業者が増える。学校給食の量から言えば少しだと思うが、ただ単に販路を見つけるのではなく、学校給食に採用するためにどうしたらいいかを研究してほしい。 ■ まず、オーガニックビレッジ宣言と実施計画が資料についていないことが不思議で仕方がない。この検討会では宣言と実施計画に基づいて議論するはず。 ■ 2 点目は、取組面積の 3 6 ヘクタールの根拠は何か。委託で有機生産者

	の実態調査をされるということだが、実態調査をしてないのに面積はわかっているのか。委託の位置づけがわからない。 ■ 販路開拓についても、既存の有機生産者たちは全て販路を持っている。実態調査の上でどう考えていくかということなのか。 ■ 3点目は、既に有機農業に取り組んでいる方の力をどう借りるのか、参加してもらう図がわからない。資料で生産者は指導される側になっているが、すでに有機農業をされている方たちである。 ■ それから近江八幡市の場合、主力は米になるが、既存の有機農家で野菜を育てている人も多いと思う。米とどういうバランスで広げていこうとしているのか。 ■ 学校給食で圧倒的に使いやすいのは米で、そこから広げていく方が良いと思うが、まず米に焦点を当てるのか。
事務局	■ 1点目について、宣言と実施計画については改めて資料として用意する。 ■ 2点目の36ヘクタールの根拠だが、国の環境保全型農業直接支払交付金の実績となっている。取組面積を把握しているが、資材などの取組の状況までは把握していないため、委託業務の中で取組状況や販路を把握したい。 ■ 販路については、実態調査で把握した中で、有機農業の進め方についてヒアリングしながら今後の方向性について出していきたい。 ■ 地域おこし協力隊の就農型2名について少し補足すると、募集に先行して、既存の農家さんに指導していただく役割をお願いする予定。募集をしてこられた方とのマッチングを図っていきたい。
委員	■ 地域おこし協力隊で応募された方は、技術がないため、研修が必要。有機の農家にマッチングしないと意味がない。受け入れ先をある程度把握していて、それを前提に地域おこし協力隊を募集していかないといけない。
事務局	■ 地域おこし協力隊については、ご意見いただいたとおりと認識をしている。新規就農をされる方については1年間指導農業士の下で研修し、技術が身につく、そういった資格がある。
委員	■ それは有機農業者か。
事務局	■ 有機農業者で指導農業者の方がおられる。
委員	■ 全部有機ではなくて有機を一部している人か。
事務局	■ 一部だが有機で取り組まれている方2名に既に声をかけている。地域おこし協力隊を募集するときに、マッチするような方々を選択していただいて、その中で技術を身に付けていただく。 ■ 少なくとも1年間は研修しながら働いていただき、技術を身に付けていただいて、いずれは長期的に近江八幡市の有機農業を担っていただきたいと考えている。
委員	■ 基本的には米ということか。
事務局	■ 2名とも基本的には米。ただ、指導農業士の資格はないけれども、指導したいという方もいる。そういった方々を紹介する中で、地域おこし協力隊に応募された方に選んでいただく予定。
委員	■ 生産者の実態調査はもうできているのではないかと。何を委託するのかというのは次に問われてくる。
事務局	■ 今後、新規で有機をされたい方がいたときに、資材や販路、規模などを調査し、複数の販路を提案していただくことを考えている。 ■ 域内流通促進については、市内の中で事業者とのイベントなどそういった提案をしていただければと考えている。
委員	■ 学校給食で使うというのは、大人にしてみたらいい話だということにな

委 員	■ 象徴的な出口として学校給食は1番目にしたほうがいい。 ■ 委託する際、市の実態調査や市の実態にあわせて販路開拓する場合、他の自治体の情報が重要なので調査してもらうことが必要。それを近江八幡市に当てはめたときにどのように使えるか、そういう視点で調査や助言してもらう方がいい。
事務局	■ 学校給食については、学校給食とは別に、地域活性化企業人の制度を活用しながら、子どもに対する食育の事業の実施も考えている。 ■ オーガニックビレッジ宣言についても、体験事業など有機農業に触れる機会を増やしていきたい。提案等があればお願いしたい。 ■ 委託については、全国的な先進地から学び、近江八幡市の特徴を把握し、近江八幡市に合った提案をしていただけるように進めていきたい。
会 長	■ 事業計画を進めるためには何を委託すればよいか明確になってないといけない。 ■ 地域活性化起業人にしてもらう内容はどのように考えておられるのか、教えてもらいたい。
事務局	■ 地域の食材、有機農産物や水郷ブランド野菜、湖魚などを料理教室やイベントなどでPRしていくというのが1点目。2点目は、子どもに対して、農と食や環境について啓発する食育等のイベントの実施をしていきたい。
委 員	■ イベントするにもお金がかかる。オーガニックを進めているけれども、積極的なPRはされていない企業はある。近江八幡市でオーガニックの食材を使って取組をされている方を掲載してはどうか。
委 員	■ 自発的に近江八幡市に行くとか安心安全なおいしいものが買って食べることができて身も体も豊かになるというようなことを全員で関わっていくベースに、やはりオーガニックビレッジ宣言があると考えるので、小さくてもできることは早くすることが大事。 ■ 学校給食の話にしても、収量がなくてもできる。 ■ 学校で地域住民の方と話して、祭事菓子を提供しているが、その際、なぜこのお菓子を食べるのかという話をしてもらうようお願いしている。オーガニック給食も、背景など話をしながら、取り組んでいただきたい。 ■ 近江八幡らしいオーガニックビレッジというところをしっかりとわかりやすく広めるようなものがあればいいと思う。
委 員	■ 2軒の農家の方が、生産者として令和8年からオーガニックの米をスタートするということだが、作ったものは市が全部買われるのか。販路が見えてこない。 ■ 今、オーガニックのお米は品切れ状態なので、そういったところに近江八幡も有機米がありますよと持っていけたら非常にいい。
事務局	■ 今まで生産者に対し、作ることにについては支援をしてきたが、出口である販路の把握をしていないため、この委託で現状を把握した中で販路を示して支援していきたい。
委 員	■ 登録制にするのも手だと思う。
事務局	■ インターネットで有機米を売るとすぐに売り切れる状況は把握している。
委 員	■ 新しく有機に取り組む方の販路を探して一般に売って、何のPRになるのか。それを使って学校給食を実施したというのが近江八幡市のPRではないか。その期間が1か月持つかわからないが、そうすることが非常に大きな一歩だと思う。
委 員	■ オーガニックビレッジ宣言をしているところはそこから始まっている。なぜそれを第一歩に宣言していないのか。

- | | |
|-----|---|
| 委 員 | ■ 給食無償化もあり、市の予算の枠があって厳しいという面もあるのかもしれない。 |
| 委 員 | ■ 市長がオーガニックビレッジを宣言したのだから、オーガニックの食材を子どもたちに食べてもらうことがいかに重要なことか、教育委員会や教職員、担当者が理解しないといけない。 |
| 事務局 | ■ 学校給食からスタートして、成功しているところも把握している。確かに学校給食というのは非常に重要だと理解をしているが、まずはブランド化を図っていききたい。 |
| 委 員 | ■ ブランド化を図るのであれば、5、6年、10年もかかる。ブランド化を図ってからでは遅いと思う。 |
| 事務局 | ■ 他の自治体の事例を見ても学校給食について市が支援することによって、結果的に販路が安定するのは生産者にとって非常にありがたいという話も聞いているし、ブランド化は時間がかかるというのも理解している。また、有機農業というのはなかなか取り組みが進まず、一気に生産拡大することは難しいことも把握しているため長期的な視点で進めている。 |
| 委 員 | ■ 同時進行ですればいいのか。その中で一番早く、効果があるのは学校給食だと思う。 |
| 事務局 | ■ 例えば、有機の食材等を使って美味しい料理を食べてもらうことによって地域の農産物を知っていただくなど食育の観点からも進めていくことを考えている。様々な検討を進めている状況。 |
| 委 員 | ■ 学校給食に食材をスムーズに卸せない。教育委員会と、学校給食会があって、そこに業者がかんでいる。しかし、他市町の事例は全てそこを突破してきている。 |
| | ■ しかも、最初に生産できる米の量はたいしたことがない。ある学校に一定期間だけ納入すればいい。センター方式でしているところは大量生産するので難しいと思う。例えば亀岡市は、学校に炊飯器を置いて炊いたところから始まり、その後規模が拡大していった。 |
| | ■ 最初は、どうしても無理が出てくるが、その無理を押し切らないからいつまでも変わらない。他市町の例を出して説明するのも一つだと思う。 |
| 事務局 | ■ 持続的に学校給食に有機農産物を供給するということが必要であるという認識は全く変わっていない。他の市町の事例も認識している。現状においては、先ほど説明したとおりの方針ではあるが、皆様のご意見も極めて重要だと思っているので、これから検討していきたい。 |
| 会 長 | ■ 有機農業推進の調査をどういうテーマですか出していただければまたアドバイスができるかと思う。 |

議題3 オーガニックビレッジ座談会 の開催報告について

- | | |
|-----|---|
| 事務局 | ■ 資料2、資料3に基づき、事務局から説明。 |
| | ■ 今後の座談会について、内容やテーマについて意見、助言を求める。 |
| 委 員 | ■ 5月17日の座談会に参加した。特に有機農家の生産者は孤独である。ある意味プレッシャーを感じている。隣は農薬を入れて除草をしているのに、こちらは無農薬でいかに抑えるかということに誇りを持っている。そこを精神的にも支援するために、有機農業者の集まりや座談会の拡大、イベントの実施も重要。良い意味で市役所の職員もプレッシャーを感じてほしい。 |
| 委 員 | ■ どちらの座談会も出席したが、参加者の全員が大規模でされているというわけではなく、家庭菜園レベルや小さい面積をされている方が多い印 |

	象がある。
	■ 廃棄物を肥料化する視点を持たれている方が多かった。
	■ 小規模な方は、市場に回すところにハードルを感じていて、流通に入っている会社が、支援をしているという話を聞いた。大規模な方は自分たちでも自走することができる方が多いと思うので、小規模の方の目線や、流通への支援などの視点があった方が座談会の参加者の悩みが解消されやすいのではと思った。
委 員	■ 5月17日の座談会で話題提供をした。
	■ 横のつながりがなかったことや、手間がかかるという言葉もよく出ていたが、想像以上に盛り上がり意見交換をされていて、関心が高まっているのを肌で感じた。
	■ 今年度の1回目は、生産者視点の話だったので、今後違う視点での話になったときはどういった意見が出るか、注視していく必要がある。
委 員	■ 座談会をオンライン上でできれば、自由度を高められると思う。市場というのは地域にとって大事な機能を果たしている。オンライン上で市場を作ればいい。多くの方の参加者ができたときに、一番可能性が生まれてくる。そういうものはお金がかかるのか。
事務局	■ やり方はいろいろあると思う。
委 員	■ そういうのもあると、若い人もそうだし、いろいろな人も、おもしろいと思う。
	■ そこに市場があって、お米が欲しいという人がいれば、アクセスすればすぐわかる。今の時代にオンラインを使わない手はないと思う。
委 員	■ 今話された市場のイメージというのは、販売を含めた市場か。
委 員	■ 含めている。
委 員	■ 座談会の報告について、年齢や性別、よかったかどうかくらいしかなく、生産者か消費者かの内訳や1回目と2回目でどう違ったのかわからない。一番関心があるのは、この2回の座談会を通じて参加者の間でのネットワークができたかどうか。そういう人たちの考えていることや悩みもすくい上げながら広げていかないといけない。
事務局	■ 今の意見を踏まえ、分析し、次回の資料として用意する。
	■ なお、2回目の座談会は3分の1ぐらいが農業者であった。全て有機の方ではない。1回目も2回目も参加者同士が知り合いの方が多い。
	■ 2回目は、円山町の方にもご参加いただいた。
	■ 生産者の方は孤独という話が出ていたが、座談会で不安などを話し合いながら、どうしていけばいいかを話し合う場が欲しいという話がでていた。
委 員	■ オーガニックビレッジ座談会は、市の取組を知らしめ進めていく上で非常に重要な取組だと思う。この過去実施された座談会の内容を踏まえて、これ以降の段階の改善を進めていかないといけない。今年度の具体的な計画について議論する必要があると思っている。
	■ 今後の行動計画を共有いただけるとありがたい。
会 長	■ いろいろな意見を持っている方がおられる。行政だけでは難しいと思うので、そういう方の力を借りて検討したい。
	事務連絡
事務局	■ 2回目の検討会は秋頃を予定している。日程調整表を送付する。
	■ 地域おこし協力隊の活動報告会の開催を案内する。オーガニックビレッジ推進事業でも、今後、地域おこし協力隊に着任いただく予定である。

閉会
(省略)